

病院だより

ガイアの季節

2011

第6号

平成23年4月1日発行



医療法人 伴帥会

愛野記念病院

〒854-0301 長崎県雲仙市愛野町甲3838-1
TEL (0957) 36-0015 FAX (0957) 36-1027

ホームページ <http://www.ainomhp.jp/>

・介護老人保健施設「ガイアの里」・ケアマネジメントセンター・愛の訪問看護ステーション・グループホーム「椿高野」・愛野健康センター

新病院建設にむけて

理事長 貝 田 英 二

このたびの東北地方太平洋沖地震により被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

弊院 前理事長 貝田繁雄儀は去る平成22年12月22日永眠いたしました。ここに故人 生前の永年に亘る御高誼に対し深く御礼申し上げます。私儀 院長 貝田英二が理事長に就任いたしました。就きましては、今後一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて弊院は昨年5月よりハイケアユニットを新設、療養病棟を56床から36床とし一般病棟を増床、より急性期へと転換しました。職員数も病院400名、介護施設90名となっております。また昨年は、新人看護職員の離職者がなく県内施設における離職率0%施設の4施設の一つとなっています。今後も患者様を第一に、そして職員が働きやすい環境をこころがけていきたいと思っております。

また、長年の懸案でした新病院の建設も今年3月には着工することとなり、来年10月には完成予定です。新病院は全てが一般病床となります。急性期への対応として手術場を拡充4室とし、ハイケアユニットを8床と救急施設などを充実し、外来スペースは2倍の広さに拡充、例えばMRIを2基とし、心血管造影室を完備し

ました。リハビリ室は3倍の広さとなり、病室に関しては個室を全体の20%配置し、4床室を一床あたり8㎡以上と、よりアメニティーに配慮しました。さらに屋上庭園を配置して、照明は全てLEDとし太陽光発電等のエコロジーを取り入れたものとなっています。

今年は新病院にむけて、干支である兔のように「飛躍」する年であり、来年の新病院完成の辰年には、竜のごとく「大空に舞い上がる」年としていきたいと考えています。さらに病院が新しくなるとともに、医療の質の向上と地域に愛される病院であり続けるよう、職員全員で一丸となって努力いたす所存であります。今後とも皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



新病院完成予想図

基本理念

- 一、私たちは患者様、利用者様の立場にたち、納得していただける良質な医療・介護サービスを提供します。
- 一、私たちは保険・医療・福祉を通じて地域の皆様の安心・信頼・満足のゆく健康で豊かな生活を支援します。

人工関節置換術

整形外科医師 伊藤 茂

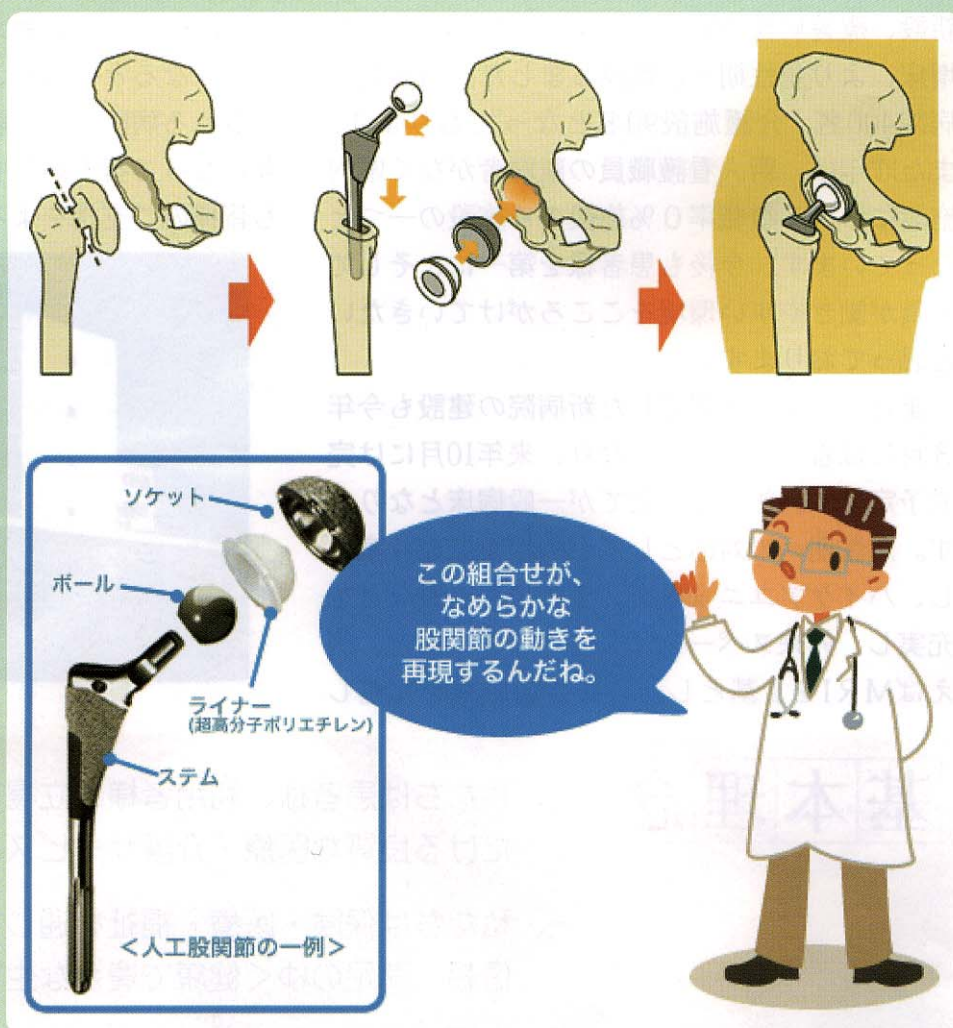
人工関節置換術とは関節のいたんでいる部分を取りのぞき、人工の関節に置きかえる手術です。関節の痛みの原因となるものをすべて取りのぞくので、他の治療法と比べると痛みを取る効果が大きく、また術後の社会復帰が早い事が特徴です。現在当院では膝関節、股関節、肘関節、肩関節、指関節等に対して人工関節置換術を行っています。一般的に人工関節置換術の適応となるのは、変形性関節症や、関節リウマチのため痛みがひどく、日常生活の動作が制限される方、関節が著しく固く、動かせる範囲がせまい方、逆に関節の破壊が著しく、不安定性が強い方などです。こうした関節を人工関節と置換することで、痛みのない、安定した動きを獲得し、日常生活が大きく向上します。

手術によっては、無菌的な手術となるため、クリーンルームが必要となります。さらに、通常全身麻酔で行いますので、いろいろな疾病をお持ちの方の場合、手術、麻酔にリスクを伴います。そのため、術前に十分な検査を行い安全に配慮しなければなりません。幸い、当院では麻酔科の常勤医が1名、専門医含め、計3名が常勤しており、恵まれた体制がとられています。

膝関節、股関節の手術の場合、出血に対し輸血を必要とする場合があります。また、当院では術前にご自分の血液を保存し、輸血（自己血輸血）に使用することで感染や拒絶反応等の予防に努め

ています。術後の合併症として、細菌感染には十分注意しなければなりません。その予防の為に、抗生剤を点滴・内服薬等で投与させていただきます。また下肢の人工関節手術の場合、肺塞栓症のリスクがあるため。その予防のためフットポンプや弾性ストッキングの着用により、下肢の静脈血栓を予防し、薬による予防も行っています。また、人工関節には耐用年数があり、耐用年数を過ぎ傷んだ人工関節は、入れ換える手術が必要になります。膝関節、股関節では15～20年、肘関節、肩関節では10～15年長持ちすると思われますが、日常生活での関節の負担を減らし、筋力トレーニングを続け、定期的な診察を欠かさないことが大事です。

詳しくは外来担当医にお尋ねください。



乳がん検診の実績について

健康センター
診療放射線技師長 内 藤 二 郎

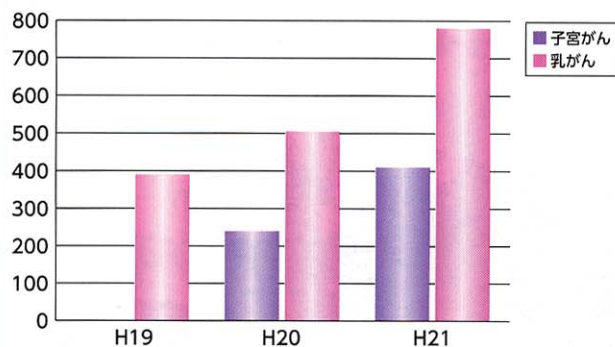
平成19年に健康センターを設立、現在5年目に入った所です。現在、市の健診（雲仙市・南島原市・諫早市）を始め、様々な健診を行っています。平成21年11月、第19回日本乳癌検診学会総会（北海道）にて当院の乳がん検診の現状を発表して参りました。今回、その時のデーターをもとに報告させていただきます。

乳がん検診（マンモグラフィ検診）の当院受診者数は、平成19年より年々増加傾向にあり、雲仙市の受診



率も、平成19年度19.8%、20年度25.4%、（県平均21.4%）と増えています。当院では、40歳代にマンモグラフィ検診と超音波検査の併用を進めています。超音波検査は自費となっておりますが、必要性を説明すると、90%の方が受けられています。

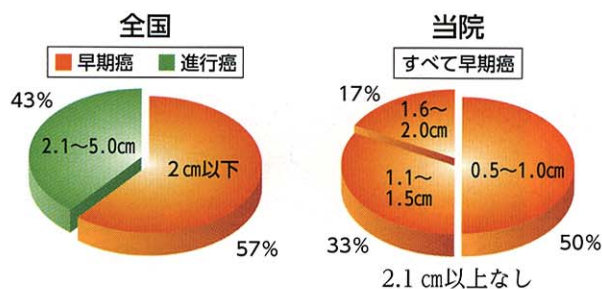
婦人がん検診人数実績



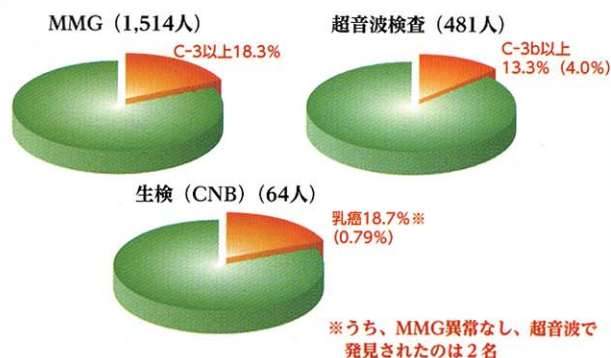
悪性腫瘍発見時の大きさを全国と比較しました。平成21年度までのデーターですが、当院ではすべて2.0cm以下の早期で発見しており、また内訳としても半分は1.0cm以下で見つけ、学会においても高評価を得ました。検診の結果、マンモグラフィ受診者の要精査者と、高濃度乳

腺の50歳以上を含む、40歳代または、30代のエコー検診のみに対し超音波検査を行う。そのうち13.3%、全体の4%がC-3以上に生検となる。また、生検をした18.7%、全体の0.79%の12名に癌を発見できました。内2名はマンモグラフィでは、異常なしで、超音波にて発見しました。全国の癌発見率0.27%（平成19年度）と比べ、高かったように思われます。

発見時の悪性腫瘍の大きさの比較



当院の検診結果



NPO法人ピンクリボンながさきにも協力しており、平成21年は島原半島、22年諫早市とピンクリボンフェスタのスタッフとして参加しました。一般市民の皆様に、乳がん検診の認識・必要性等、詳しく説明し理解していただくよう努めております。

今後は、地域での乳がん検診に対する啓蒙活動を推進し、更なる受診率の向上に努めて行きたいと思っています。

糖尿病教室を終えて

消化器内科医師 大塚 英 司

昨年11月3日、ガイアの里にて糖尿病教室を22名の参加で開催しました。

当日は身長、血圧、眼底、血糖測定、INBODYによる体組成分析を行いました。

INBODYでは、体の水分量、骨格筋量、体脂肪量などが測れます。家庭の体脂肪計に比べると、より詳しく体の状態を把握できます。

会は内科の中路医師より開式の辞で始まり

①内科医 大塚より「テレビでは聞けない耳寄りな糖尿病の話」

②看護師より「日常生活の注意点～糖尿病と上手に付き合う方法～」

③管理栄養士より「来て見て食べて知ろう！～糖尿病という名の健康食～」

3人の講演の後、糖尿病食のバイキングを行いました。メニューの中には本来糖尿病では「控えましょう!」と言われるカレーやカロリーオフの料理などの中から好みのものを選んで食事をされました。糖尿病治療の要である食事療法を楽しく学べた様子でした。

休憩の後には

④理学療法士より「歩いてシェイプアップ」

⑤薬剤師より「糖尿病の治療薬は大家族～あなたの薬はどんな性格?～」

最後に古賀副院長の閉式の辞で締めくくりました。

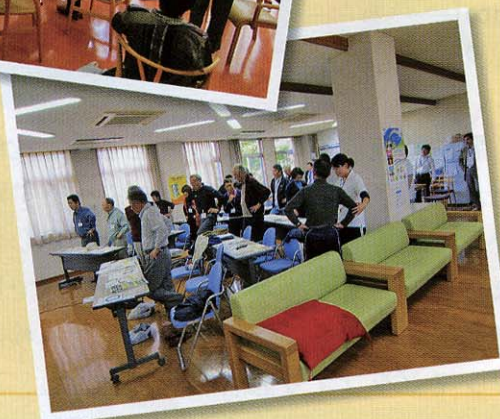
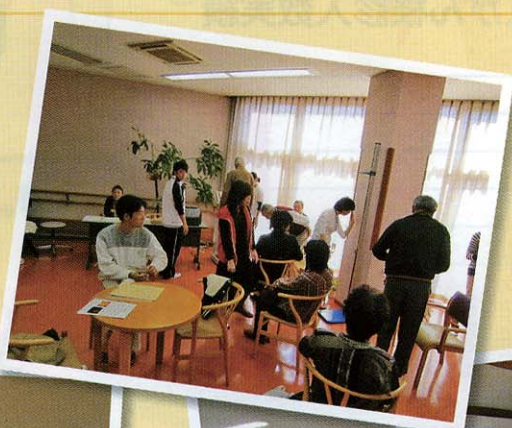
このようにたくさんの職種の方から講演があり、他にもフットケア体験や、展示コーナーがあり、充実した会を開催することができました。

約10年ぶりの開催で不手際もありましたが、途中でカロリーコントロールアイスのおやつや帰りには本日のレシピや低カロリー甘味料のサンプルなどのおみやげもあり、アンケート調査結果も好評でした。

糖尿病人口は890万人、予備軍を入れると2200万人と言われており、日本人の6人に1人は糖尿病の可能性があるとされています。

糖尿病は患者さん自身のコントロールで良くもなれば悪くもなります。今回学んだことを生かし合併症を1人でも減らすことができれば私どもスタッフは幸いです。

今後も定期的に糖尿病教室を患者様の情報交換の場になり得るよう企画したいと思っておりますので、皆様奮ってご参加ください。



内視鏡の新時代・革命

外科医師 古賀 浩 孝

2011年3月、愛野記念病院に、カプセル内視鏡が登場しました。

カプセルを飲むだけで、食道、小腸、大腸の検査ができるようになります。

残念ながら、胃の検査には向きませんが、1秒間に2フレーム、およそ10時間で、7万枚の写真を撮影し、検索します。

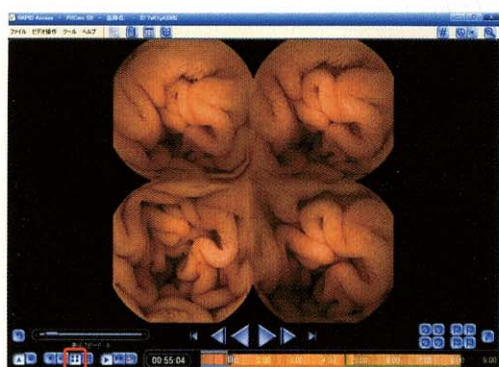
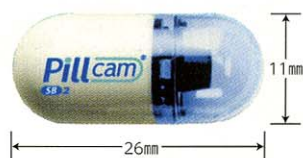
カプセルの大きさは11mmの直径で26mmの長さです。

現在は小腸の検索のみの保険適応ですが、早々、大腸ファイバーのかわりになる存在です。最大の利点は、カプセルを飲んだまま、仕事ができること、カプセル服用後、2時間後より飲水可能、4時間後より食事が可能です。

是非皆さんも、ご家族や、ご自分にお試しくださいませ。

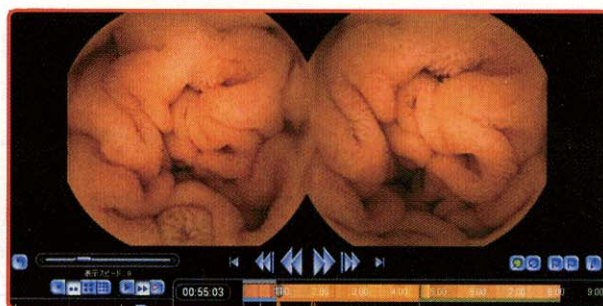
詳細は、内視鏡担当 古賀、担当看護師 荒木まで。

カプセル内視鏡



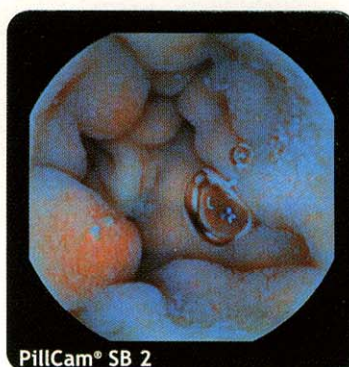
クワッドビュー

4つの連続した画像で視覚的負担を軽減します。



クイックビュー

特徴的な画像のサンプリングを行います。



ブルーモード

ブルーを主体とした色調で画像観察を行います。



2時間後

4時間後



愛野記念病院 緩和ケアチーム 「すずらん」の御紹介

緩和ケアチーム「すずらん」
チーフDr. 深堀 知 宏

こんにちは！「すずらん」チーフDr.の深堀です。外科医ですが、緩和ケアにのめり込んで約10年になります。母を食道癌で亡くした時、終末期医療を何にも理解していなかった自分に気が付きました。緩和医療学会やJPAPに入会し、一から勉強しました。愛野記念病院に赴任して、約5年…多くの協力者を得て、念願の緩和ケアチーム「すずらん」が一昨年、動き始めました。その特徴についてご紹介します。

1) 主治医型で対応

基本的にコンサルト型ではなく、深堀が主治医となります。すべての悪性疾患を受け入れています。院内からの紹介の場合は副主治医になる時もありますが、緩和ケアに関する部分は直接的に介入します。主治医と密接なコミュニケーションを大切に、チーム医療を心がけています。

2) スピーディーな対応

2週間に1回カンファランスを開き、緩和ケアの患者さんを全員検討しています。その検討結果は深堀が主(副)主治医なので、即実行できます。毎日(休日以外)全患者さんを診て回ります。問題発生時は病棟スタッフや関連メンバーとショートカンファランスを即座に行い解決を図ります。

3) 充実したチームメンバー

当院は元々整形外科の病院です。PT, ST, OTそれぞれプロ意識を持ち、やる気満々です。栄養士はNSTメンバーです。食の要望に柔軟に対応してくれます。薬剤師は薬局から病室まで飛び回っています。モーズ軟膏やフラジール軟膏など特殊な薬剤も難なく調合してくれます。MSWは限られた中、

少しの間でも患者様が望む場所で過ごせないか、難しい調整役を快く引き受けてくれます。訪問看護からの情報は非常に有益です。看護師はしっかりと傾聴しています。それから、看護部長が御意見番を務めています。毎回さまざまなケースや問題に何度も納得いくまでチームで話し合い、取り組んでいます。

多少自慢めいた話になりましたが、当地域で緩和ケアを要する患者さんがおられましたら、声をかけてください！出来る限りのケアを提供いたします。

「すずらん」の理念

☁ 私たちは全ての患者様に、良質な緩和医療を提供します。

☁ 私たちは地域全体の緩和医療の推進に努めます。

